

Domaine Launay-Horiot

ドメーヌ ローネイ オリオ

珠玉の銘醸畑と異色のキャリアを持つ新進気鋭のスター生産者

ローネイ家がポマールに定住し始めたのは 18 世紀のことで、歳月を経てポマールの名だたる銘醸畑を徐々に買い足してゆきました。総面積 4ha の畑のうち、2.2ha は 1902 年に最初のブドウが植樹されたポマールの一級畑レ・ペリエール、同じくポマールの一級畑レ・リュジャン・パに 0.09ha、レ・シャポニエールに 0.59ha、クロ・ブランに 0.17ha を所有し、ジュヴレ・シャンベルタンの卓越した特級畑ラトリシエール・シャンベルタンに 0.17ha(ピエール・デュロシエの畑に隣接)、同じく特級畑のシャンベルタンに 0.16ha(ラルー・ビーズ・ルロワの畑に隣接)を有しています。

2000 年に先代のレイモン・ローネイが亡くなり、この 4ha のブドウ畑は、レイモンの娘と孫にあたるグザヴィエ・オリオに遺産として残されました。レイモンは、亡くなる前、娘にドメーヌを継続する意志がなく、土地を売って現金に換えることを望んでいると知り、酷く心を痛めました。当時のフランスの法律では、残念ながら他に不術がありませんでした。当時、戦闘機のパイロットとしてフランス空軍に従軍していたグザヴィエは、愛する祖父の遺志とワイン造りにかける情熱を受け継ぎ、家族の畑から再び格別なワインを生み出すという祖父の夢を叶える決意をします。

11 年もの歳月をかけた法廷争いを経て、グザヴィエの資金は枯渇しますが、一族の自社畑から作るワインを再興させるというグザヴィエの決意はより強固なものとなり、ついに 2011 年、グザヴィエは勝訴を勝ち取り、この稀少な 4ha の自社畑を手に入れます。(皮肉なことに彼と法廷で争った実の叔母は、この判決が出てから 2 ヶ月後、相続人がいない状態で亡くなりました。)グザヴィエはフランス空軍を辞職してポマールに帰郷し、ドメーヌの復興へと乗り出します。幸運にも、彼のブドウ畑は、法廷争いの間中ずっと適切な手入れがなされ、樹齢を重ねていました。

最初の 3 年間は、実質資金ゼロの状態からワイナリーをゼロから立ち上げてゆく傍ら、自らの手で畑仕事を行い、ブドウ畑で実験的な栽培を重ねて収穫されたブドウの殆どを他社へ売却することで資金を調達し、ブドウ栽培とワインの醸造に必要な設備を少しずつ買い足しました。

2014 年には、才能あるコンサルタント、ヴェロニク・ジラル女史の助けを得て、グザヴィエ自らの手でワイン作りを始める準備が整いました。(グザヴィエの言葉を借りると、「ポマールは女性の手が入ることで大いに恩恵を受けることが出来ると実感した」そうです。)やがてトム・アトキンを始め、アレン・メドウやミッシェル・ベタンヌなどといった錚々たる顔ぶれの評論家が彼のもとを訪れるようになります。ドメーヌのワインは、ポマールの村名ワインから一級畑のワインに至るまで、ポマールの独特で柔らかな表現力が余すところなく引き出され、その全てが将来有望で極めて興味深い味わいのワインであり、2 つの特級畑ラトリシエール・シャンベルタンとシャンベルタンに至っては、卓越した表現力を持ってそれぞれのテロワールの持ち味が見事に引き出されているとの共通認識がワイン評論家の間で瞬間に共有されてゆきました。

2015 年ヴィンテージからは、グザヴィエ・オリオの激務とその意志の強さがついに報われ、グザヴィエのワインは、シリアスなブルゴーニュワインの愛好家の間でも認められるようになり、ワイン評論家に至っては、例外なく全ての評論家が口を揃えて称賛し、一貫して高得点を付け、「Sweet spot outstanding(胸を打つ傑出したワイン)」や「Don't miss!(見逃してはならない逸品)」の文句から始まる賞賛コメントを綴るようになります。2016 年ヴィンテージは、バレル・テイステイングの段階で既に美しいバランス、ピュアな果実味、素晴らしく魅惑的な味わいを見せ、グザヴィエ率いるドメーヌ・ローネイ・オリオの将来が輝かしいものであることを確信させました。

◆醸造手法◆ ブドウは、容量 11 キロの小さな箱を使用して手摘みで収穫し、細心の注意をもって選果台で綿密に選別した後、発酵桶まで無傷の状態運ばれ、発酵前に低温で 6~8 日間かけて果皮浸漬させます。温度を一定に調整することにより、キュヴェゾンの期間は毎年 4~5 週間とることが出来ます。1 日に 1~2 回ピジャージュとルモンターージュを施して果皮から必要なだけ香味成分を抽出し、12~16 ヶ月の木樽熟成を経て瓶詰前に更に 1~2 ヶ月タンクで休ませます。新樽率は、15%~75%までアベラシオンごとに変えています。

■2016 ヴィンテージ情報■ ◆バーグハウンド誌 #70 号より◆ドメーヌの現オーナーであり、かつて戦闘機のパイロットとしてフランス空軍に従軍していたグザヴィエ・オリオ曰く、「2016 年は霜とべと病の対策が大きな課題となったが、何とか対処でき、全体的な収量は 2015 年とほぼ同じであった。2015 年と成熟度は異なるものの、皮が非常に厚かったため、同じように醸造に行った。私は、この年のスタイルが好みで、質的に全く異なるスタイルを持つが、2015 年に比肩するヴィンテージだと思う。」◀2018/4/15 掲載▶



■2017 ヴィンテージ情報■ ◆バークハウンド誌 #74 号より◆グザヴィエ・オリオ:「2014 年からワイン作りを始めて以来、2017 年は、これまでに仕込んだ中で最も多く生産量を確保することが出来たヴィンテージだ。そしてこれには、嬉しい副産物があった。生産量を増やすにあたり設備を買い足さなければならず、お蔭で同じく豊作となった 2018 年に備えることが出来たからだ。収穫は 9 月 6 日から開始し、収穫された果実は、比較的クリーンで、選果作業は、熟し切れていない実を取り除くのみに留まった。2015 年や 2016 年の時ほどポリフェノールの抽出が容易ではなかったため、この年は、キュヴェゾンの期間を長くすることでこの分を補う必要があった。この年のワインに関しては、極めてフレッシュで爽やかな味わいであることに加え、テロワールの持ち味が素晴らしい透明感を持ってありありと引き出されている。個人的にととても好きなヴィンテージになった。」《2019/4/10 掲載》

■2018 年ヴィンテージ情報■ ◆バークハウンド#78 号より◆ グザヴィエ・オリオ:「2014 年にワイン造りを始めて以来、2017 年と 2018 年は、最も生産量の多いヴィンテージとなった。しかし、それでも収量過多とはならず、38hl/ha~40hl/ha の間に収まったが、抽出レベルの高さは、2018 年の方が前年よりも遥かに高く、色味を抽出するのに果醪などの固体部分に殆ど触れる必要がなかった。このため 2018 年は、前年の 2017 年よりも遥かに濃縮感のあるヴィンテージとなった。糖度も豊かでいて高過ぎず、潜在アルコール度数は最も高いもので 13.5%弱ほど。この年に手掛けたワインは、非常にクオリティが高く、どのワインも 2017 年ヴィンテージのものよりも上位に位置づけることが出来る。」

ローネイがワイン造りを始めて以来、基本的にどの年もそうだが、2018 年ヴィンテージも 1 級クラスの仕上がりで、強くお勧めしたい逸品揃いだ。ローネイ曰く、2018 年は無ろ過・無清澄で、合成コルク Diam(ディアム)10 を使用し、2019 年 12 月に瓶詰めしている。《2020/4/10 掲載》

■2019 年ヴィンテージ情報■ ◆バークハウンド#82 号より◆ グザヴィエ・オリオ:「私は、このヴィンテージが好みだ。生育期は困難な課題に直面したが、収穫した果実は申し分ない出来だった。非常に健全な果実で、潜在アルコール度数は 13.4 ~ 13.8%と良好な数値を示し、しっかりとした酸味を備えている。また、タンニンもよく熟し、果実の抽出レベルも素晴らしく、ほとんど自然に発酵した。熟成も最低限の配慮をするだけで、問題はなかった。ワインの出来は、最終的にお客様が判断することになるが、私はとても満足している。」
《2021/4/10 掲載》

2017 Pommard Perrières (Plantée en 1902)

上代価格 ¥8,300(税抜)

2018・2019 Pommard Perrières (Plantée en 1902)

上代価格 ¥9,000(税抜)

ポマール ペリエール (プランテ アン 1902)

■テクニカル情報■ 品種:ピノ・ノワール 100% 畑:樹齢 110 年を超える村名区画 畑面積:2.2ha

2017VT★バークハウンド 89 点 #74 2019 年 4 月 10 日(飲み頃:2023+年) 可憐な赤いベリーやプラムを思わせる果実味豊かでフレッシュなアロマに、温かな大地の香りが仄かに香る。艶やかで鮮やかなミディアムウェイトの美味な味わいは、くっきりとした美しい輪郭を最終損なうことなく、バランスのとれた複雑で余韻の長い後味を生む。酒齢の若いうちから楽しむには十分と言えるほど熟成の進みが早いワインである。他誌評価:★ヴィノス 90 点★ジャンシス・ロビンソン 16/20 点



2018VT★バークハウンド 89 点★Outstanding Top value(傑出したバリューワイン)★: リキュールのような赤いベリー系果実と柔らかなスパイスのアロマを基調とする可憐でエレガントな香り。心地よく快活で非常に緻密なミディアムボディの味わいは、重厚さは突出せず、心地よい爽やかさを持ち、軽やかなミネラル香と穏やかな苦みを帯びた微かに温かみのある後味が広がる。
《飲み頃:2026+年 | #78/2020/4/10 掲載》★ジャンシス・ロビンソン 15.5/20 点

2019VT★バークハウンド 89 点★Outstanding Top value(傑出したバリューワイン)★: プラムやスマイル、微かに漂う柔らかな土を思わせる円熟したアロマを絶妙な樽香が縁取る。見事なボリューム感と濃厚さを備えた緻密な味わいのミディアムボディで、バランスが良く、優しい素朴なニュアンスを帯びた後味が長く続く。この秀逸なポマールの村名ワインは、まさに注目に値する。2019 年も例外なく、美しく熟成を重ねるだろう。
《飲み頃:2025+年 | #82/2021/4/10 掲載》

2017・2018 Pommard 1er Cru Chaponnières

上代価格 ¥12,000(税抜)

ポマール プルミエ クリュ シャポニエール

■テクニカル情報■ 品種:ピノ・ノワール 100% 畑:レ・リュジャン・パの下方に位置するポマール南部の 1 級畑 畑面積:0.59ha

2017VT★ヴィノス 92 点:2017 年のポマール・レ・シャポニエールは、香り豊かでフローラルなブーケを持ち、牡丹の花やバラの花びらのアロマが赤いチェリーやラズベリーのアロマと共に溶け合う。極めてスパイシーな味わいのミディアムボディで、しなやかなタンニンが感じられ、しっかりとしたきめ細やかなストラクチャーを持つ後味が広がる。自信を持って紹介できる実に安定感のあるクオリティを持つポマールである。最高の逸品。《飲み頃:2021-2036 年 | 2019/1 掲載》



2017VT★バークハウンド 91 点:自己主張をしない穏やかな樽香がピノ系の黒果実やプラムのアロマと大地やソヴァージュの仄かなニュアンスを包み込んでいる。ミッドパレットは、比較的滑らかなが、より力強さとパンチの強さが顕著に感じられ、やや素朴で余韻の長いバランスのとれた後味を生む。威風堂々たる風格を備えた味わいが実に素晴らしい。《飲み頃:2025+年 | #74/2019/4/10 掲載》

2018VT★バークハウンド 91 点★Outstanding(傑出したワイン)★:微かな冷涼感を感じさせる抑制の効いたアロマは、構成的にはポマールのヴィラージュ・ワインに類似している。味わいはより洗練された口当たり滑らかなミディアムボディで、後味に広がるミネラル香がやや顕著に引き立って感じられ、より硬質に引き締まっており、バランスもとれている。検討の価値ある逸品。《飲み頃:2030+年 | #78/2020/4/10 掲載》

2018VT★ジャンシス・ロビンソン 16.5/20 点:外観は、軽やかなチェリーレッド。ポマール・ペリエールよりも果実感が引き立ち、果梗由来の香りはより控えめ。極めて心地よい香りを持ち、美しくバランスがとれている。ドライなフィネスに余韻の長い後味。
《飲み頃:2023-2030 年 | 2020/1/14 掲載》

ラトリシエール シャンベルタン

■テクニカル情報■ 品種:ピノ・ノワール 100% 畑:シャンベルタンと境を接する斜面頂上部・ピエール・デュロシェの畑に隣接
畑面積:0.17ha 平均樹齢:70年 新樽率:50~75%



2016VT★バークハウンド 94点 #70 2018年4月15日(飲み頃:2031+年) プラム・リキュール、スパイス、大地、様々な花々の香りを湛えた極めて清涼感のあるエレガントで抑制の効いたアロマの上に小声で囁くような微かな樽香がほんの僅かに感じられる。味わいはミドル・ウェイトで香りとの一貫性が感じられるが、より濃厚なミネラルが香る抑制の効いた輪郭のくっきりとした味わいを持ち、素晴らしく余韻の長い静謐な後味が広がる。長期熟成型だがさほど収斂性を感じさせないこの洗練された見事な味わいのワインは、正に模範的なラトリシエール・シャンベルタンである。他誌評価:★ジャンシス・ロビンソン 18/20点

2017VT★バークハウンド 93点 #74 2019年4月10日(飲み頃:2029+年) やや抑制の効いた香りだが、広大で幅が良く、黒いチェリーやカシス、ブラック・ラズベリー、スパイス、スミレの花の香りが、あまり目立たない穏やかな樽のニュアンスと共に徐々にゆっくりと露わになってゆく。素晴らしく艶やかでこの上なく濃厚なミネラル感溢れる味わいは、張りのある筋骨隆々とした男性らしさが感じられ、やや若々しい収斂性を伴ったほろ苦いチェリーの種の風味を帯びた後味を生む。リュジアンとは対照的に、このキュヴェは、もう少し打ち解けやすい味わいへと成熟するまでに10年近くの熟成期間を要する。他誌評価:★ヴィノス 92点 ★ジャンシス・ロビンソン 17/20点

2018VT★バークハウンド 93点:ポマールのシャポニエールと同程度の冷涼感と抑制の効いた香りが感じられるが、より深みのある香りで、熟れた赤や黒のベリー系果実のアロマを包み込むソヴァージュやスパイスのニュアンスがより引き立って感じられる。口当たり滑らかで、殆どデリケートとも言えるエレガントな味わいは、豊かなミネラル感に満ち、若々しい収斂性を帯びた静謐で余韻の長い後味が広がる。このワインもまた重厚さの突出したワインではないが、素晴らしく調和のとれた味わいで、長期熟成力の高さを感じさせる。

〈飲み頃:2033+年 | #78/2020/4/10 掲載〉